

金城学院大短大 ○佐藤 貞子
益田貴美子

1. 青年女子の体位の向上に伴う手部の諸測度の実態を知るため、計測を行った。

その結果を手袋のサイズ等と比較して二、三の考察を試みた。

2. 資料は、金城学院大学短期大学部被服専攻に在籍する健康な女子学生 18~20 才の 216 名である。計測方法は佐藤忍等の文献を参考とし、私案を加えて定めた。マルチンの計測器を用いて昭和45年5月~6月に計測を行った。研究項目は、身長・胸囲・上肢長・上腕長・前腕長・手長・掌長・拇指長・示指長・示指側中指長・薬指側中指長・中指側薬指長・小指側薬指長・小指長・掌囲・拇指付根囲・中指付根囲・胸囲/身長・示指側中指長/掌長の 19 項目である。これ等の平均値・相関係数を用いて考察した。

3. 1) 相隣る年令間では、2, 3 の項目を除いて平均値間に有意差は認められない。

2) 示指側中指長/掌長では約 $3/4$ が 43~45% に該当する。

3) 指長・掌囲/2 等の成績は手袋に応用する事が出来る。

4) 身長に対する相関は、上肢長は高く、上腕長・前腕長・示指側中指長は中程度で、手長は低い。掌囲・中指付根囲は胸囲に対して低い相関がある。